

フォローアップ項目に対する報告

2021年12月17日

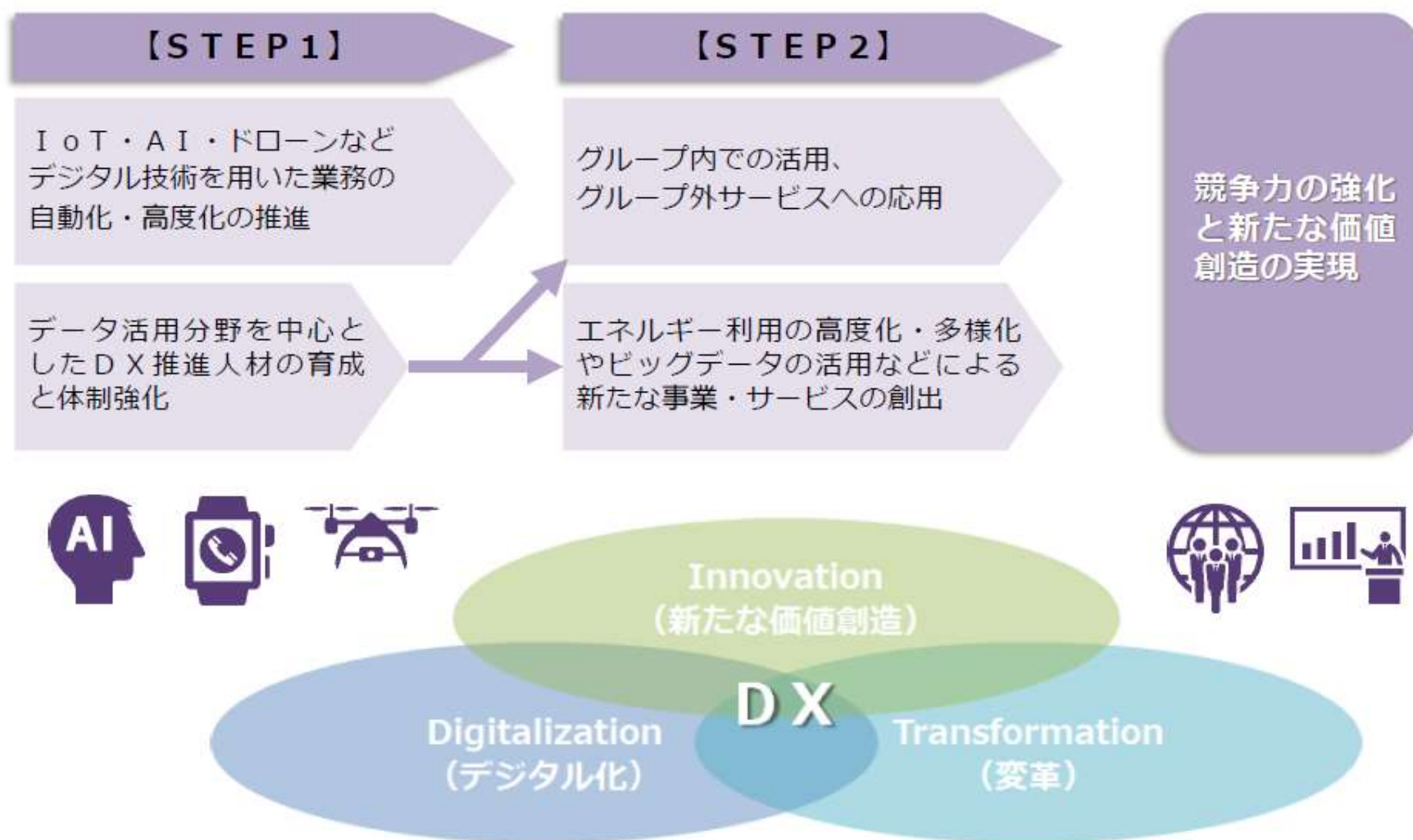
四国電力送配電株式会社

1. デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

[よんでんグループ中期経営計画2025（概要版）から抜粋]

- 四国電力グループは、デジタル技術を活用して業務やビジネスを変革するデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、効率化の深掘りや革新的なサービスの創出などにより、競争力の強化と新たな価値創造の実現を目指してまいります。

(DX推進のイメージ)



2. 次世代スマートメーターの活用

- 当社では、電力分野におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する観点から、次世代スマートメーターのデータやネットワークの更なる活用を目指していきます。
- 社会便益として挙げられる「レジリエンスの強化、系統全体の需給安定化・再エネ普及脱炭素化、効率化・需要家利益の向上」に対して、当社が検討している主な活用方法は以下のとおりです。
- 今後、社会便益や一般送配電事業者の役割なども踏まえ、有効性や実現性を評価しながら、運用上必要な機能を当社システムに確実に具備することを目指していきます。

意義	主な項目	主な活用方法	活用意義
レジリエンスの強化	停電の早期解消	低圧・高圧スマートメーターのポーリング機能や30分値データを活用した高圧断線検知や隠れ停電検知	停電箇所の早期把握・復旧および自治体との連携により、災害時のライフラインを確保
系統全体の需給安定化 ・ 再エネ普及 脱炭素化	配電系統運用の高度化	スマートメーターの30分値を活用し、電圧・電流値の推定による電圧制御の高度化を検討中 次世代スマートメーターの5分値を活用した、よりきめ細やかな電圧制御を検討	電力系統安定化による再エネ発電等の普及促進に伴う脱炭素化への貢献
効率化 ・ 需要家利益の向上	新たな価値とサービス	ガス・水道等の使用量や異常警報等の収集・提供の拡大による共同検針の推進 水位センサ等のIoTセンサ情報の収集・提供等による新たなサービスを検討	IoTルートを活用したガス・水道との共同検針や各種センサ情報の収集等を推進

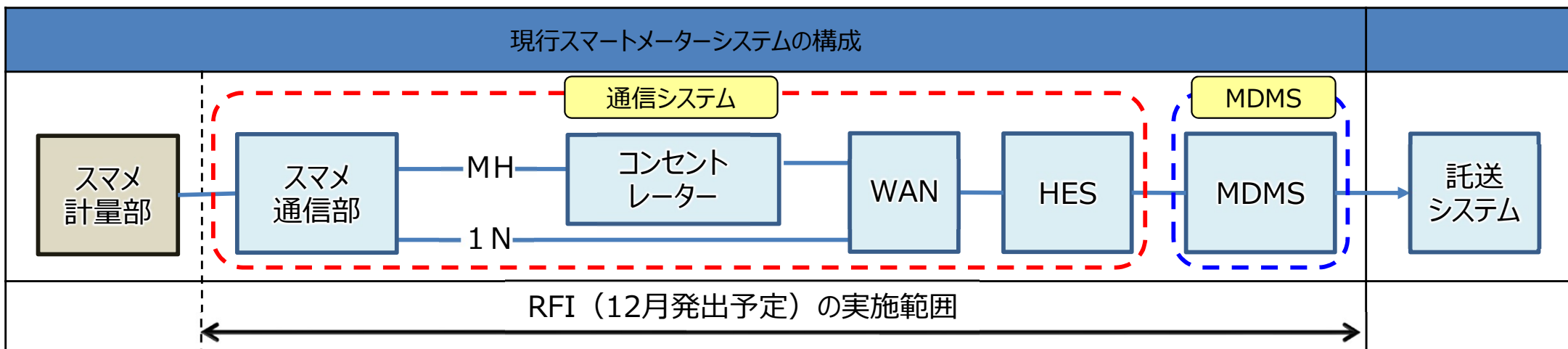
3. 次世代スマートメーターシステム 検討・開発スケジュール

通信システム（通信部／FAN／WAN／HES）およびMDMS

- 2026年度に予定している現行スマートメーターシステムのリプレースに合わせて次世代スマートメーターシステムの機能要件にも対応できるよう、2021年度にRFIを実施し、次世代システムの実現に向けた技術情報や参考費用について、様々なベンダから幅広く情報収集します。
- 2022年度以降はRFIで情報収集した技術情報・参考費用の評価結果をもとに、調達方法（RFP、競争入札、随意契約）を判断し、設計・開発等を行います。

託送システム

- 現時点においてはシステム化要件が未確定であることから、RFIの実施については検討中。



年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
通信システム	RFI	詳細検討	設計・開発・試験					
MDMS	RFI	詳細検討	設計・開発・試験					

次項へ

4. 情報提供依頼（RFI）の概要

- 効率的・効果的なシステム開発や公平な調達などを目的に、弊社ホームページに技術情報提供依頼事項を公表し、広く情報提供を依頼します。また、情報提供いただけるベンダとは秘密保持に関する手続きを実施のうえ、弊社より技術検討に必要な詳細情報を連携します。
- 提供いただいた情報は、将来の拡張性も含めた技術面やコスト面などから総合的に評価します。また、リプレイスにおいては現行システムの高い品質を維持しつつ、次世代システムへの移行を実現するため、現行システムからの移行性を考慮した実現方法であることも、評価のうえで重要な視点となります。

RFIスケジュール

RFI スケジュール	2021年度						2022年度
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
通信システム MDMS	情報提供依頼書（RFI）作成		△ RFI発出			評価	△ RFI完了
			ベンダによる技術検討・情報提供				

以 上